

2011年(平成23年)1月29日 土曜日

EVの可能性探る

左京でシンポ 技術者らが紹介

電気自動車(EV)と未来の交通システムをテーマにしたシンポジウム「京都研究会、2020年の都市交通」が28日、京都市左京区の市国際交流会館で開かれた。

日産自動車の寺本正彦シニアエンジニアは、同社製EV「リー

フ」を開発した背景を交えてEVの可能性を紹介。「自動車の走行時間は1日のうち1・5時間程度。スマートグリッド(次世代送電網)の中にEVを位置付け、駐車中のEVを電気の貯蔵に使うことで限られたエネルギーの効率利用ができる」

とした。

太陽光パネルと電気自動車を組み合わせれば、1家庭の電力消費量を賄うことも可能だが、充電池の劣化を防ぐ充放電制御技術などが必要と強調。「エネルギーの有効利用に向け、行政や自動車メーカー、NPOなど社会のあらゆる領域から貢献できることは多い」と述べた。

研究会は、情報通信技術を活用し、持続可能な社会づくりに向けた活動を続けるNPO法人「日本サステイナブル・コミュニティ・センター」(京都市上

京区)が開催。市民や研究者たち約50人が参加した。(西川邦臣)



電気自動車の可能性などを紹介したシンポジウム(京都市左京区・市国際交流会館)